

1. 新型コロナウイルス感染拡大状況の中にあって

(1) ＜命を守る＞＜学びを守る＞＜心を守る＞ことを達成する。

＜命を守る＞

感染症拡大防止のための取り組みを、地道に確実に実行する。

＜学びを守る＞

学校の強みは「他者との関わりを通して学べる」ことにある。“個の学びと集団での学び”、“アナログでの学びとデジタルを活用した学び”を効果的に融合させ、主体的・対話的で深い学びを実現させる。

＜心を守る＞

様々な制限が長期化し、子どもたちの心身には目に見えない負荷もかかっていることを想定する。新しい生活様式の中だからこそ可能な、様々な人や自然、事象との出会いのある教育活動を工夫・充実させ、豊かな心を育むとともに、お互いを尊重しながら課題解決に向けて協働する力を育む。

(2) 子どもの前に立つ大人が、主体的・創造的・協働的である。

感染症の影響により、臨時休業はいつでもあり得る。完全休業には至らずとも、イレギュラーな形での授業実施が長期に及ぶことも想定される。今年度も「例年通り」が通用しないことを改めて自覚して、常に職務に主体的に臨むことを大切にする。

どのような状況にあっても、学校のミッションは、「学習保障」と「人間性の涵養」である。どんな状況でも私たち一人一人が創造性を発揮して、「できること」を最大限に行う。

「できること」を考える過程では多くの困難が伴うが、一方で、求められる対応策に「正解はない」とも言える。試行錯誤しながら、ベストでなくベターを創る。

スタッフ一人一人の力を集めて、チームワークで乗り切る、よりよいものの創造をめざしたい。初めてのことに對しても、柔軟な発想が次々に浮かぶメンバーもいるが、得意でない人もいる。緻密に条件を整えるのが得意な人もいる。ひとそれぞれの強みと弱みがある。対面でのコミュニケーションの制限もあるが、工夫しながら、平時にも増してコミュニケーションを密にし、それぞれの強みを終結させ、チームで、質の高い課題解決を図ることをめざす。「仕事は人間関係です。」「目標設定は高く。“低き”に合わせない。」「平均値を高める。」

2. 「自学共生」 = 「強く やさしく」

新型コロナウイルスによる社会の大きな変化と向き合う中で、「よりよい学校教育を通じてよりよい社会を創る」という目標を共有し、社会と連携・協働しながら、子どもたちに未来の創り手となる資質・能力を育む。」という新学習指導要領の理念の達成が、待ったなしで突き付けられている。

After コロナの世界を歩む子どもたちに、「自学共生」の力を身に付けさせることを、改めて自覚したい。

「自学共生」は、「強くやさしく」と読み替えることができる。

「強さ」の具体的な内容は、学力、体力、流されない強い心と実行力であり、「やさしさ」は、自他を大切にする心と行動力である。

課題を乗り越えたくましく生きるための強さ、世のため、人のために動けるやさしさの基礎を身に付けさせることを目指し、日々の教育活動推進にあたって常にこの教育理念を念頭に置くこととする。

3. 学校経営の基本理念

- 「わたしが教える」から「わたし達が教える」教師団
- 「わたしが育てる」から「わたし達が育てる」PTA
- 「あたりまえのこと」が「あたりまえにできる」子ども

4. 学校経営の基本方針

①<わたし達チームで教える二延小> 学年団協働システム機能の充実

☆学年団機能を発揮して、より効果的・効率的な教育活動の実現（働き方の改善と連動）

- ①指導力向上を目指す教員集団・教育環境を整える職員集団の連携
 - ・自己の職務目標の実現に向けて自己研鑽を続ける教職員・
 - ・学年主任を中心とした学年団の情報・行動連携の徹底と専科会機能の充実、事務及び用務・給食調理担当者、心理・英語・図書等各スタッフの緊密な連携
- ②状況に応じた、組織的で迅速かつ適切な対応、個に対する丁寧な対応
 - ・児童間トラブル・怪我・保護者対応など、各状況に応じた情報の共有・報告、安全管理・危機管理意識の向上
- ③校務の重点化やSSの活用等働き方改革の実現による教育活動の充実
 - ・学年団会議の時間の確保と打ち合わせ内容の充実（指導内容・方法、学校行事、児童・保護者対応等、報告・連絡・相談の徹底）とSSS等の活用

②<確かな学力と品格を育てる二延小>義務教育9年間中の6年間に責任をもつ教育課程

☆新教育課程の実現と落ち着いた学校生活のための二延スタンダードの徹底

- ①教えて考えさせる授業の充実による主体的で対話的な深い学びの実現
 - ・日常的な「教えて考えさせる授業」の実践研究による授業実践力の向上
 - ・協働学習における言語活動の実践による主体的・対話的な学びの実現
- ②年間を見通した教育課程の実施による学力向上、規範意識の向上と社会性・人間性の育成
 - ・学力調査等の結果及びその分析を踏まえた学力向上に向けた指導方法や内容の工夫・
 - ・支援の必要な個に対する具体的な対応の実現
 - ・一貫プランを含めた市民科の一層の充実、英語カリキュラムに基づいた指導の充実
 - ・生活習慣・姿勢の改善に向けた健康教育の充実、体力調査結果等に基づいた体づくり
- ③個の特性に応じた特別支援教育の充実
 - ・訪問指導教員と学年・学級担当教員との連携した指導体制の構築
 - ・個別の支援が必要な児童の的確な状況把握と対応策及び支援体制の充実
- ④二延スタンダード（学習規律・生活規律）に基づく指導の徹底
 - ・時と場に応じた礼節を身に付けた児童の育成に向けた二延スタンダードの活用と指導の徹底

③<学校・家庭・地域と共に育てる二延小> 教育の当事者としての協働

☆地域・保護者とともにつくる、地域に根差し地域と共に児童を育てる二延小

- ①品川コミュニティ・スクールとしての活動を通じた地域の中にある学校の実現
 - ・校区教育協働委員会の機能の充実による質の高い学校運営の実現、地域との連携強化
- ②地域・保護者の教育参加で共に創る授業、行事、校外学習
 - ・運動会・二延まつりもちつき大会等、学校・PTA共催行事の充実
 - ・保幼小中学校、家庭、地域町会、昭和大学と情報の共有化・協働
 - ・安全安心のための協働（防災・いじめ問題に対する意識、地域訪問・個人面談等の実施）

5. 教職員としての行動指針

Think Globally

Act Locally

理念 や ねらい を明確にする

具体的な手段 を確実に講じる

- 1 教育活動、指導行動のねらいを明確にする。(Think Globally)**
☆「あたり前」を疑う。 目的と手段の取り違いはないか。
- 2 ねらいを達成するために、豊かな活動を仕組む。(Act Locally)**
☆教材研究に裏打ちされた授業実践（家庭学習の提供）
- 3 ねらいに向かった具体的な取り組みは、組織的・継続的・徹底的に行う。**
☆学年団力を高める。 (Act Locally)
☆スタッフのコミュニケーションで、平均値を高める。
- 4 ねらいに向かった具体的な取り組みは、評価検証し、改善する。(Act Locally)**
☆学習（授業）の評価 ☆分掌校務の評価 ☆マイナーチェンジを！
- 5 新学習指導要領の理念を、確実に理解し、実践する。(Think Globally) (Act Locally)**
☆「身に付けさせるべき資質・能力」とは？ 「見方・考え方を働かせる」とは？
☆「何を知っているか」ではなく、『何ができるか』へ
- 6 個に応じた指導力（特別支援の視点）を高める。(Act Locally)**
☆様々な個性・特性をもった児童を、学級や授業へ適応させることが求められている。
☆言葉を磨く ☆よいこと・素敵なことを発信する（保護者は不安でいっぱい）
☆児童を「認める」言葉を増やす。
- 7 あらゆる人と連携する。(Act Locally)**
☆専門職との連携 ☆外部人材との連携 ☆保護者との連携 ☆地域との連携
☆困難な時だからこそ、「助けを求めよう」「助ける」
- 8 対話する。対話の場を仕掛ける。(Act Locally)**
☆ひょうたんからコマ
☆スタッフのコミュニケーションで、平均値を高める。(再掲)
- 9 児童に求めることは、まず教師自身が「そのようにする」。(Act Locally)**
☆協働する
- 10 明るく元気に、児童に・他者に向き合う。(Act Locally)**
☆そのために最善な働き方をめざす。
☆今こそ、笑門来福の気持ちで！「明るい一言」の大きな力！